

## Injury Alert (傷害速報)類似事例

ブラインドカーテン紐による縊頸 (No.36 カーテンの留め紐による縊頸の類似事例 5) ㊦

事例	基本情報	年齢：2歳 9か月 性別：女児 体重：14kg 身長：94.0cm
	家族構成	父、母、兄(9歳)、姉(7歳)、本児
	発達・既往歴	特記事項なし
臨床診断名		心停止後症候群、縊頸
医療費		入院 2,494,390円
原因対象	対象名称	ブラインドカーテン紐
	入手経路 使用状況	本製品は自宅（一戸建て）購入時、備え付けのもの（図1・2）。セーフティジョイントは備え付けられていなかった。セーフティジョイントとは、ある程度の力が掛かると、ジョイント部分が分離する仕組みの部品。
発生状況	発生場所	自宅の居間
	周囲の人 周囲の環境	発生時、家にいたのは本児と母のみであった。 発生時の目撃者はなし。
	発生年月日	2024年3月X日（月）午前8時0分頃
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	2024年3月X日午前7時30分頃に朝食を摂取した。午前7時50分に、母は元気に遊んでいる本児を確認していた。その後、しばらく母の目が届かない状況だった。午前8時0分頃、母は窓のブラインドカーテンの紐に首が完全に入って足は床から離れ宙吊りの状態（完全縊頸）でいる本児を発見した。本児は顔面が蒼白でぐったりとしており、母は速やかに本児を降ろし、救急要請並びに胸骨圧迫を開始した（午前8時0分覚知）。午前8時9分救急隊接触時本児はGCS E1V1M2、脈拍は弱いながら触知している状態であった。 発生時、ブラインドのカーテン紐は、紐を止めるクリップが外れており、ソファの近くにぶら下がった状態であった。本児は普段から、ソファから飛び降りて遊ぶ行為を行っていた。ブラインドのそばにソファを置いており、ソファのひじ置きに乗れば首が引っかかる高さであった（図1・3）。

<p>医療機関受診時以降の治療経過 転帰</p>	<p>午前 8 時 33 分 医療機関 A に到着時、GCS E1V1M2、瞳孔径は 4.7mm で左右差なし。顔面に多数の溢血斑、頸部に索条痕を認めた。血圧 106/72mmHg、脈拍数 78/min、SpO<sub>2</sub> 100% (酸素 10L/min 用手換気下)。意識障害が遷延しており、挿管・人工呼吸管理の上、集中治療室に入室した。体温管理療法 (34°C 24 時間、8 時間復温) を中心とした中枢神経保護治療、脳波モニタリングを行い、脳波上の急性発作に関しては抗けいれん薬を使用した。治療後、頭部 MRI 検査や最終の脳波検査では異常がないことを確認し第 5 病日に抜管した。その後意識レベルは GCS E4V5M6 と改善を認め、第 7 病日に集中治療室を退室し一般病棟へ転棟した。その後も、神経学的には明らかな異常は認めず、第 18 病日に退院した。退院時 PCPC (Pediatric Cerebral Performance Category) は 1 であった。 現在は、小児科外来で経過観察を行っている。</p>
<p>キーワード</p>	<p>ブラインドカーテン紐、縊頸、ソファ、心停止</p>



【図 1】 実際の現場写真

↑  
ブラインドカーテンとクリップを分かりやすくするために黒くしたもの

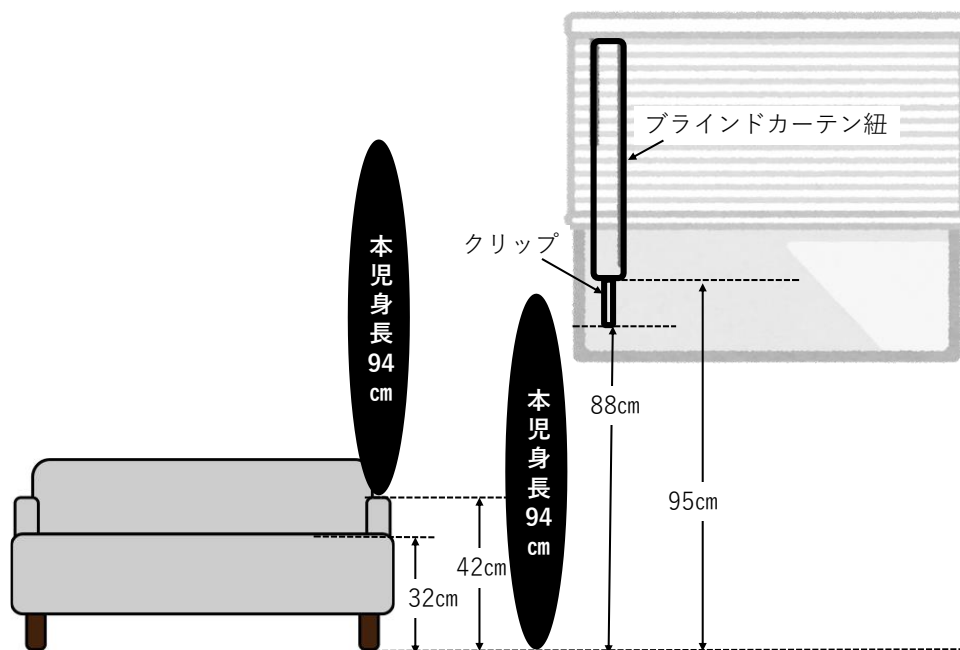


クリップ



クリップにブラインドカーテン紐をまとめている

【図2】 クリップとブラインドカーテン紐



【図3】 ソファとブラインドカーテン紐、本児の高さ